

戸畑区日本共産党後援会「ニュース

# とばたの風

第47号

2014年11月発行

発行責任者  
配川 寿好

北九州市戸畑区  
天籟寺1丁目1番15号  
Tel.873-3735  
(部内資料)

# 戸畑をますますさびれさせる 10%増税とんでもない!

## 戸畑の小売店舗

### 最高時の半分以下に

かつてたいへんにぎわっていた戸畑の商店街ですが、この間の大型商業施設の進出や不況の影響を受けて、苦戦を強いられています。

それに拍車をかけたのが消費税の導入です。最高時は1600軒以上あった小売店舗が、いまはその四割程度までに減っています。

最近中本町で店舗を構えたという40代の男性は、「人通りが少ない。これからどうなるかと、不安を隠しません。

### くらしは貧しく、

### まちはますますさびれる

8%への増税で、個人消費が大きく冷え込んでいます。特に、家計の消費はこの20年来で最悪です。3%から5%になった時以来、不況が続いています。8%増税がそれに拍車をかけることになったのです。

10%への増税に対して、住民の日々の暮らしを支える戸畑の業者に声を聞くと、「これ以上消費税が上がったら廃業に追い込まれる」と、その危機感は大変なものです。



製麺業 (牧山)  
田中 龍さん (49)

親から引き継いで以来15年になりますが、この間に小麦粉は3割ほど値上がりし、ガスや電気の上

料金も年々上がっています。ですが、お店に卸す麺の価格は1割も上げていません。みなさんが、やりくりしながら店をやっているところに、値上げをお願いすることはなかなか言い出せません。これ以上消費税が上がったら、いよいよ商売が成り立たなくなります。増税は絶対にやめてほしい。

私は言いたい

## 真摯に向き合う姿勢こそ



「とばたの風」編集委員  
来田 時子

慰安婦問題の本質は、女性の人権を無視し、蹂躪したことにあります。

強制連行かどうかは問題ではなく、ひとたび「慰安所」に入れば監禁拘束され、

## 弱い者いじめの

## 消費税増税

消費税は、所得の低い人ほど負担が重い最悪の税金です。それを増税するなど、安倍首

相の「弱い者いじめ」の政治の正体見たりです。戸畑のまちをさびれさせ、住民の生活をいっそう苦しめる消費税増税は、みんなの世論でやめさせましょう。



高橋彰夫

消費税上げる、支持率下がる

## ヨイサ!

9月28日鹿児島市天文館公園に、全国から7500名が集まり、ストップ川内原発再稼働の集会が開かれ、参加した。参加者は、「川内原発を全国の原発再稼働の突破口にさせない」という熱い思いで集まっており、天気もかんかん照り、舞台の熱気も加わって、それは暑い!熱い!集会となった▼地元である薩摩川内市では、「52円で住民投票しましょう」とハガキでの住民投票にとりくんではのこと。また、川内原発から最短距離にあるいちき串木野市では、5月から再稼働反対の署名をはじめ、すでに人口の過半数である1万5千名分を集めたと報告があり、大きな拍手を受けた▼福島や玄海など原発の地元から、国会議員、自治体の首長や鹿児島県議から、川内原発の30キロ圏内自治体の議員等々から、次々に発言が続いた。中でも「これは生きるか死ぬかの闘いです。この秋の沖縄の闘いと共々勝利しましょう」の訴えは、参加者の胸に響き渡った▼集会の前日に起きた御嶽山の噴火は、世界の活火山の10%が集まるという日本の恐ろしさを浮き彫りにした。川内原発のすぐ近くにも活火山があるのだから、再稼働などありえない。現実を無視して強引に再稼働を推し進める安倍政権に、あらためて怒りがわいた一日であった。



北九州市議員  
荒川 徹

# 暴力団の壊滅へ、いまが正念場

## 勢力拡大の背景に公共事業

指定暴力団「工藤会」の幹部が相次いで逮捕され、暴力団排除の取り組みがよいよ正念場です。白島石油基地建設工事の際は、暴力団関係企業を通じて、相場より高い価格で資材を買わされ、その差

額が暴力団に流れたと言われている。

日本共産党は、市議会の論戦で、本市における暴力団の勢力拡大の背景にある「大型公共事業をめぐる利権あり」について、厳しく対処してこなかった市には「大きな責任がある」と追及してきました。

## 癒着を断ち切るこそ対策の要(かなめ)です

公共事業を通じた資金の流れを断ち切ることが、暴力団

対策の要です。

若松区で始まる海面埋め立て事業をめぐる、漁業補償を狙った暴力団の暗躍が噂されるなか、9月の市議会でも、漁業補償金がどのように配分されたのか、その内容を自主的に公開するよう、関係者に働きかけること等を求めました。

市民の安全を守り、安心して暮らせるまちづくりのために、どうしても避けて通れない課題です。

## 最終章

魏志倭人伝訳文「倭人は帯方郡の東南の中にあり。(略)そこではじめて一つの海を渡る。その距離は一千余里(略)そして伊都国、奴国、不弥国へと続く」

ここに不弥国が、今我々が生活しているこの土地です。古代に戻れば、岡の県主祖熊鰐が治めていた土地で、その湊が洞海湾の入口、正津湊です。

司馬遷の「史記」に「徐福東渡」伝説が記述されていて、

## 第29回「ぶどう・梨狩りバスハイク」(8月31日)



(浮羽・フルーツの里にて)

戸畑郷土史会会長 小石 善則

# 地名に秘められた戸畑の歴史

それを裏付けるかのよう前漢前期の文物が北部九州でかなり発見されています。例えば、我が戸畑の蟠螭文鏡、飯塚市立立岩遺跡の文物がそれにあたります。

この段階での漢と倭の国々との交易ルートは遼東半島、黄海のルートであったと思われる。文化の交流のみならず、後の日本社会(大和)の発展に多くの役割を果たしました。

「正津」は大陸往復の水軍基地であり、「里海」の「妙境」でもあったのです。

水軍の総司令官は死して後も、自身が育んだ水軍の基地



当時の水軍の想像図  
船には持長と呼ばれる特殊な祈禱を行う者が乗っていたとされる。

# 沖縄の勝利を祈る

大見謝恒明さん (82歳) 中原西在住

特徴のある目鼻立ちが示すように、出身は沖縄です。北九州に来てから約30年、戸畑に住んで14年余の月日が経ち、「もうすっかり戸畑の人間になった」と笑います。

那覇市で生まれ育ち、小学生の時には授業そっちのけで日本軍の飛行場作りに駆り出されました。戦火が広がり、昭和19年には宮崎に学童疎開しましたが、2、3日違いで出港した学童疎開船の「対馬丸」が米潜水艦の魚雷で撃沈され、学童700余名の小さな命が奪われた悲劇を忘れることができません。



戦後の沖縄は、米軍の基地強化拡張のため、土地の強制収容とそれに対する県民の抵抗運動の連続の歴史で、現在の普天間、辺野古をめぐる問題はまさにその延長線上にあると思っています。その運動の先頭には「カメさん」と県民から慕われた故瀬長亀次郎氏(元那覇市長、衆議院議員)がいて、大見謝さんも少なからぬ影響を受けました。

北九州に来たのは、義兄が経営していた電気工事の仕事を手伝うよう誘われたからです。その義兄が健和総合病院(当時)で入院したという縁もあって、今若戸健康友の会で囲碁・将棋クラブのお世話役をしています。自身は囲碁2段の腕前です。

今最大の関心は沖縄県知事選挙です。沖縄在住の妹から、辺野古への基地移設反対県民集会が大きく掲載された「琉球新報」が届きました。一面の半分を集会の写真が占めるその記事は、オール沖縄の熱気が目に飛び込んでくるようです。

「この選挙は何としても勝たねばならぬ」と故郷へ思いを馳せながら、戸畑の人たちにも連帯の行動を呼びかけたいと考えています。

## くすりのことなら ふれあい薬局戸畑店

戸畑区新池1丁目5-30  
☎093-881-2332

※秦の隷書体で「君宜高官」の文字が入った蟠螭文鏡の精巧なレプリカが、11月から戸畑図書館に展示されます。

が一望できる牧山の岬に、自らが持ち帰った蟠螭文鏡とともに眠ったのでしょうか。古代の戸畑もその時代と調和し、最も早く大陸の新しい文化に触れ、地名も倭の正津と唱えられました。古代『正津』は、中国との交易権を持ち、水魚の交わりともいうべき関係であったのです。